

安全データシート

作成：2013年08月20日
改訂：2024年12月26日

【製品名：HDチューブ】

1. 製品及び 会社情報	製品名：HDチューブ 会社名：水口化成株式会社 住所：富山県氷見市柳田12番地1 担当部門：品質管理課 電話番号：0766-91-2008 ファックス番号：0766-73-6850
2. 危険有害性 の要約	分類の名称：分類基準に該当しない。 危険性：通常の状態では危険な反応や火炎爆発を起こすことはない。 有害性：通常の状態では、特に有害性はない。 GHS対応：分類基準に該当しない。
3. 組成及び 成分情報	化学名：ポリエチレン 化学式又は構造式：① $(C_2H_4)_m$ ② $(C_2H_4)_m \cdot (C_3H_6)_n$ 、又は $(C_2H_4)_m \cdot (C_4H_8)_n$ 、 又は $(C_2H_4)_m \cdot (C_6H_{12})_n$ 官報公示整理番号：① 化審法番号、安衛法 (6)-1 ② 化審法、安衛法 (6)-10、又は (6)-18、 又は (6)-1574 CAS No：① 9002-88-4 ② 9010-79-1、又は 25087-34-7、又は 25213-02-9 国連分類：国連の定義上危険物に該当しない。
4. 応急措置	眼に入った場合：清水でよく洗う。洗眼は瞼を開き水が全面に行きわたるようにする。 異常がある場合は医師の診断を受ける。 皮膚に付着した場合：刺激があれば石鹸で洗う。万一、熔融樹脂が皮膚に接触、付着した場合は清水で冷やすこと。皮膚に付着したポリマーを無理に引き剥がそうとしないこと。火傷した場合は医師の診断を受ける。 吸入した場合：成分は危険となりにくいが、異常がある場合は医師の診断を受ける。 飲み込んだ場合：直ちに吐かせ、口内を水でよく洗浄する。 もし大量に飲み込んだ場合は医師の診断を受ける。
5. 火災時の措置	消火方法：消火剤や大量の水を用いる。 大規模火災には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却することが有効である。 移動可能な容器は、安全な場所に移動する。 消火作業の際には防護具を着用する。 消火剤：水、泡沫、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂。
6. 漏出時の措置	：回収し、廃棄又は焼却する。

7. 取扱い及び 保管上の注意	取扱い ・水分、湿気、強酸化剤、火源との接触厳禁。 ・このフィルムは重量物であるので、運搬時に腰を痛めたり、落下によるケガをするおそれがありますので荷扱いに気をつける。 保管 ・常温屋内保管、湿気、水漏れ、直射日光は厳禁。 ・保管はパレット等の平面な場所に縦積みして、荷崩れ防止対策を施す。 ・フィルムロールの歪みや荷崩れのおそれがあるので横積みや立てかけの保管は避ける。 ・長期保管により破損、荷崩れ、或いは製品の密着等を起こす場合があるので、過大な積み重ねや長期の保管は避ける。 (原則として6ヶ月以内に使用して下さい)
8. 暴露防止措置 及び保護措置	管理濃度 許容濃度 ACGIH勧告値 その他 ：厚生労働省告示第73号に記載無し。 ：日本産業衛生会記載無し。 ：記載無し。 ：必要に応じ適宜、安全靴、安全防具（ヘルメット）滑り止め付き手袋、安全眼鏡等の防護具を装着する。
9. 物理的及び 化学的性質	外 観 比 重 融 点 融解性 ：透明フィルム ：0.930～0.970 ：130～140℃ ：水に不溶
10. 安定性及び 反応性	引火点 発火性 可燃性 自己反応性 安定性 反応性 ：350℃付近。 ：自然発火性、水との反応性はない。 ：あり（消防法指定可燃物）。火炎、スパーク、火花等の接触により発火する。 ：無し。 ：常温で安定な物質。350℃以上で熱分解を起こし、CO、CO₂炭化水素及びその酸化物を発生する。 ：水と反応性は無し。
11. 有害性情報	皮膚腐食性、刺激性、感作性、 変異原生、生殖毒性、催奇形成 ：特に知見無し(特別問題ないと考えている)。 急性毒性、慢性毒性、癌原性：なし（文献による）。
12. 環境影響情報	分解性、蓄積性、魚毒性：特に知見無し(特別問題ないと考えている)。
13. 廃棄上の注意	「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に従って焼却又は埋め立てを行う。 地方自治体の規制がある場合は、それに従うこと。
14. 輸送上の注意	・製品、梱包装に損傷を与えぬように乱暴な取り扱い、水濡れを避ける。 ・一般的な可燃物の取り扱い上の注意事項に留意して行う。
15. 適用法令	保管 廃棄 ：消防法(3000Kg以上は指定可燃物) ：廃棄物の処理及び清掃に関する法律
16. その他の情報	本データシートは、当社の持つ知見を元に充分注意を払って作成しておりますが、この記載内容は通常の使用状態におけるものであり、特殊な条件下での安全性・引用文献の内容・全ての生体影響の網羅を保証するものではありません。使用におかれましては、適用法令に従うと共に、この製品安全シートを参考に、自社の使用に即した取扱い上の注意を検討確立し、安全に使用して戴きたくお願い致します。